

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 2014.12



「メソヂスト教会年会記録」ほか

メソヂスト派にルーツを持つ教会、学校等にとっては、沿革を語る上でまたとない第一次史料であり、青山学院以外の方の利用率の最も高い史料である。詳細は、今号掲載の本学 氣賀健生大学名誉教授による資料センター所蔵資料紹介 (pp2～3) をご参照ください。

資料センター所蔵資料紹介

日本メソヂスト教会年会記録その他 氣賀健生 — 2

館山海軍航空隊と青山学院水泳部合宿所 佐藤 隆一 — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内 — 8

日本メソジスト教会年会記録その他

青山学院大学名誉教授 氣賀健生

青山学院資料センターが所蔵する多くのキリスト教貴重文献・史料の中から、今回はメソジスト教会関係文書を御紹介しましょう。

青山学院がアメリカのメソジスト監督教会宣教局派遣の宣教師達によってその最初の基礎を据えられ、彼らによって初期の経営・教育が行なわれたといういきさつから、日本のメソジスト教会関係の史料の多くが本学の資料センターに収められているのは、当然と言えば当然でしょう。この中から、まず「日本メソジスト教会総会および年会記録」をとり上げましょう。

日本メソジスト教会の歴史は1873（明治6）年に遡ります。アメリカの（北部）メソジスト監督教会及びカナダ・メソジスト教会の宣教師達が初来日したこの年は、キリシタン禁制の高札が撤去された年であって、この宣教開始は“絶妙のタイミング”と言われました。アメリカのメソジスト監督教会（美以教会＝メソジスト・エピスコパルの頭文字）は、横浜、東京、函館、長崎に宣教拠点を設け、カナダ・メソジスト教会は東京から静岡、山梨、北陸方面を中心として伝道戦線を展開しました。ややおくれてアメリカ南メソジスト監督教会が1886年から神戸を拠点として関西から中国、四国地方に伝道しました。これらメソジスト三派が1907（明治40）年に合同して日本メソジスト教会となり、初代監督に本多庸一が就任したのです。日本メソジスト教会の教会制度は、ほぼアメリカの監督教会の制度を踏襲したものでした。即ち4年に1度の総会、毎年1回の年会（東部・西部）がひらかれ、年会に於て監督が牧師の任地を指定します。下部組織として部会（連回区）があり、それぞれ部長が任命されます。これは今日の日本キリスト教団の「教区」にほぼ当たると見てよいでしょう。実際に各個教会を運営した機能は「四季会」（年4回）とよばれ、牧師、伝道師、教会役員を以て構成され、各教会はそれぞれ教会会議をもち、教勢、会計その他の審議に当りました。ま

た、監督はくまなく全国を巡回し「監督」しました。このように、教会政治に於て、信仰指導、信条等において、他教派と較べて著しい組織的特徴をもっていたと言えます。時代に従って幾らかの変化があったとしても、基本的にはこの制度、態勢が日本メソジスト教会を運営していたとみてよいでしょう。

この日本メソジスト教会史研究に於て最も重要な第一史料が「日本メソジスト教会総会議事録」及び「年会記録」です。これは1907（明治40）年のメソジスト三派合同以降、1941（昭和16）年日本キリスト教団への統合に至る全時代のものが当資料センターに揃っています。

「総会議事録」（4年に1回）は、明治41年の第1回から、最後の第9回（昭和14年）までの全議事録が完全なかたちで残っています。

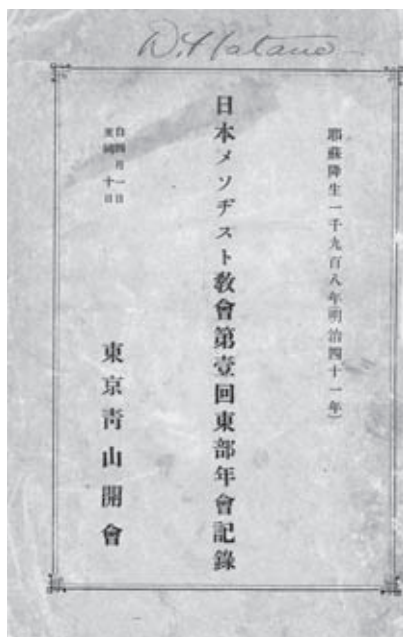
「年会記録」は、東部・西部年会記録がそれぞれ第1回～第24回（明治26年～昭和6年）、昭和7年の第25回からメソジスト教会として最後の第33回（昭和15年）までは「東部・西部年会」として一本にまとめたものの全記録があります。

日本メソジスト教会史研究にとって、次に貴重な史料は、同教会機関誌である週刊『護教』のち『教界時報』ですが、これが当資料センターにはほぼ完全に揃っています（『護教』については当シリーズで第7号に詳細紹介してあります）。

さて、1941（昭和16）年に日本キリスト教団が成立し、メソジスト教会はその「第二部」に編入されました。当資料センターはその「日本基督教団第二部第一回中部地方区年会議事録」（昭和17年）を1冊だけ保管しています。

なお日本メソジスト教会とは別に美普（メソジスト・プロテスタント）教会が1880（明治13）年から日本伝道を開始し、1941（昭和16）年の日本キリスト教団成立と共にこれに編入されましたが、当資料センターには次の記録が残っています。

日本美普教会第26～28回年会記録（大正6～



日本メソジスト教会第1回東部年会記録
(波多野傳四郎旧蔵)

8年)、第45～49回年会記録(昭和11～15年)。

美普教会の正史については、本学名誉教授故ジャン・克蘭メル氏のすぐれた研究(英文)が、当資料センターに現存しています。

さて、1907年の三派合同以前のメソジスト各派それぞれの年会記録は、各派

の日本伝道初期の公的記録として非常に貴重な史料ですが、当資料センターには次のものがあります。

まず、日本美以教会年会記録。これは北米メソジスト・エписコパル教会の日本年会の記録です。第1回が1884(明治17)年8月28日～9月3日。築地明石町十一番会堂で行なわれ、1907(明治40)年の三派合同の前年の第24回までが揃っています(第5・6・19回欠)。また「和文・英文日本美以教会中央議会第一回記録」東京九段美以会堂・1904(明治37)年3月という文書が一回分だけあります。次にカナダ・メソジスト教会日本年会の「日本メソジスト教会年会記録」が、第9回(1897年、麻布教会)から三派合同直前の第19回(1907年)まで揃っています(11・13・17回欠)。カナダ・メソジスト教会は、三派合同以前に「日本メソジスト教会」と名乗っていましたから、合同後の「日本メソジスト教会」と紛らわしいので注意を要します。また「英文カナダ・メソジスト教会日本年会記録」が1889(第1回)～1899、1901～1906(1904欠)と揃っていますので、和文年会記録を補うたすけとなるでしょう。

「南美以教会(南メソジスト・エписコパル教会)日本年会記録」は英文のもの(1899～1907、1937～38)が当資料センターに現存していますが、南美以教会については関西学院大学資料室に完全揃いがあります。

日本におけるメソジスト教会初期の女性を対象にした伝道は、主として婦人ミッションWoman's Foreign Missionary Society of the Methodist Episcopal Churchによって担われていました。その英文の「婦人美以教会年会記録」が当資料センターに残されています。1886～1930年にわたる全史料です。

以上がメソジスト教会にかかわる公的資料ですが、これらに準じたものとして、アメリカのメソジスト宣教局発行の宣教関係の年誌Year Bookが大量に保管されています。そのひとつが*Annual Report of the Missionary Society of the Methodist Episcopal Church*で、1861～1929年にわたる全時代のものがあります。(但し、1862・1875・1877・1890・1895～97・1909・1911・1921・1923を欠く)。そして1874～1923年の日本関係記事のみを筆者がDrew大学のメソジスト史料館で収集したものが別冊としてあります。また婦人ミッションの機関誌ともいうべき*Heathen Woman's Friend*が1879～1901年、欠号を除いて11冊、そしてこれも筆者が収集した日本関係記事が1874～1913年にわたって2冊にまとめられています。なお、この機関誌は1896年から*Woman's Missionary Friend*と名称が変わっています。これらの機関誌は、宣教師達の活動、苦労話、現地の事情等が写真と共に活写されていて、大変貴重な史料です。日本の明治～大正時代の、今となつては大変貴重な見聞録も数多く見られます。

当資料センターには「サンフランシスコ福音会沿革史料」－初期の部1881～83、2期の部1886～91、3期の部1892～97という大変貴重な史料があります。これは明治期の半ばごろカリフォルニアに移住した日本人によるメソジスト系の信仰活動のグループの記録です。明治中期、明治14～30年ごろ、アメリカにわたった人々の考え方、感じ方を理解するのに恰好の史料でしょう。美山貫一、鶴飼猛など初期の銀座メソジスト教会牧師の名もみられ、銀座教会がこの福音会と強い糸で結ばれていたことがわかります。銀座教会といえ、本学名誉教授故ジャン・克蘭メル氏の*Ginza and the Methodist Episcopal Church in Tokyo, 1873-1907*の稿本が当センターに保管されています。

館山海軍航空隊と青山学院水泳部合宿所

——アジア・太平洋戦争開戦をめぐって—— 〔上〕

高等部地理歴史科教諭 佐藤 隆一

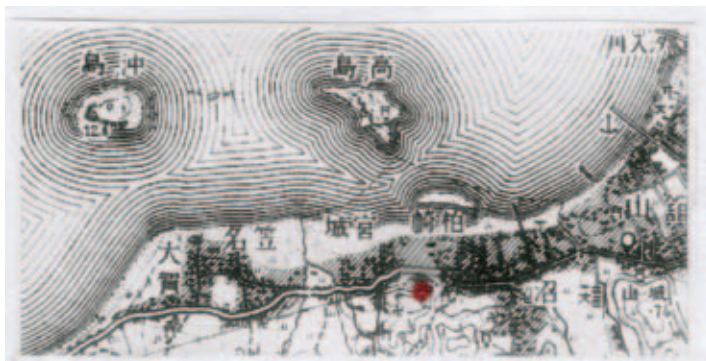
2015年（平成27）は戦後70年の節目を迎えるが、今号と次号で紹介するのは、戦前に千葉県館山町（市）に設けられた今はなき青山学院水泳部合宿所と、アジア・太平洋戦争発生との因果な関係である。私は、最近たびたび館山でのフィールドワークを試みたので、ここにご報告をしたい。

関東大震災からの復興著しい1926年（大正15）、スポーツの振興に力を入れていた青山学院は、校内にプールがなく、他の競技に比べて日常の練習場が十分に恵まれていなかった水泳部のための校外施設として、房総半島最南端の千葉県館山市に合宿所を建設した。土地購入やその後の運営については、地元の有力者である鈴木病院々長鈴木勝太郎氏、町会議員津田氏、小学校教員高橋理記氏らの絶大な協力があり、施工は清水組（現在の清水建設）が担当した。敷地は約1,500坪、館山湾（鏡が浦）に沿った小学校の跡地で、ここに生徒合宿室80畳、職員室8畳、予備室6畳、それに食堂、炊事室、炊事人居住室などを備えた、木造平屋建ての合宿所であった。

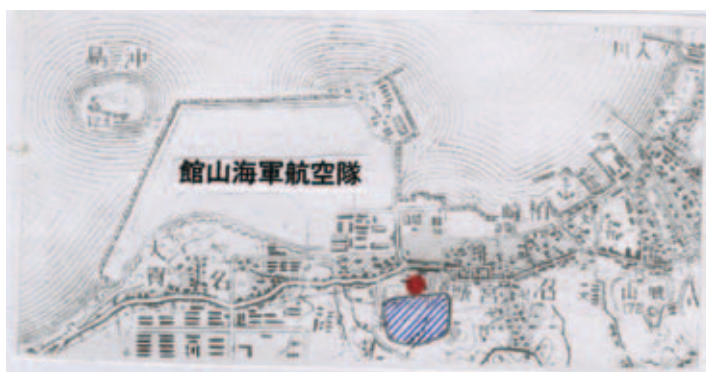
『青山学報』第46号（1926年9月28日付）には、開設当時の合宿所の周囲の環境について、おおむね次のような説明がある。合宿所は高地にあって、静かな館山湾を一望することができる。ここから約1丁（約110m）の距離を下れば汀に達する。前面には玉藻のような高島（鷹の島）がある。海水浴客が足を止める茶亭があり、足場は悪くない。高島には水産講習所の実習所のようなものがあって、魚貝類の拾得を厳禁している。海を5～6丁隔てて、沖の島がある。ここは交通が不便なので、人の姿が希である。島影には白帆を張るヨットの影も見える。合宿所の裏は赤山で、豊津公園がある。山には夏季になると、山百合の白い花がいっぱいに咲き乱れる。夜は沖合はるかに漁火がちらつく。極度に静寂なよい所である。

館山合宿所は学院の施設であったが、旧制中学部（男子系）がもっぱらその運営と使用を行い、錬成道場とも呼ばれた。館山での水泳合宿は、青山の校内にプールが開設された1929年（昭和4）以降も毎年夏に継続して行われた。合宿は試合に出場する選手だけではなく、参加を希望する一般の生徒を含めて、60名を上限とし、通常は10日間の日程で行われた。一行は月島を出航し、約4時間の船旅を経て館山の栈橋に到着した。合宿中は、朝6時に起床、礼拝を行った後に朝食をとり、8時から10時までは自習時間とし、10時から午前の水泳練習、昼食後は昼寝をし、14時より午後の練習を行い、夕食後は22時に就寝という

館山海岸図



埋め立て前（青山学院水泳部合宿所建設〔1926年〕当時）
●は青山学院水泳部合宿所（下図も同じ）



埋め立て後（館山海軍航空隊開設〔1930年〕以後）
▨は赤山地下壕のエリア

タイムテーブルが組まれていた。練習にあたっては、地元の水泳指導者から次のような指示があったという。「一、監督者の注意をよく守ること。一、海に入る前に頭をよくひたすこと。一、身体に異常を感じた時は速やかに申し出ること。」10日間の合宿で、泳げない生徒も帰る頃にはしっかりと泳げるようになり、一緒に部屋で眠り、同じ釜の飯を食べることで、皆兄弟のようになり、互いに幾人かの友人を持つ機会となったようだ。合宿所での食事は、10日間ご飯の他には副食物は魚と野菜が全てであったが、特に新鮮な魚は日本橋の河岸でも味わえないような美味しいものばかりで、誰も苦情を言う者はいなかったという。

1926年(大正15)から1942年(昭和17)までの『青山学報』には、館山での水泳合宿のエピソードがたびたび報告されている。ここに、その主なものを紹介したい。

水泳が休みの日もあり、そういう時は皆で「臥^が龍^{りゅう}の松」と呼ばれる大木を見に行ったり、弟や妹への土産に海岸で美しい貝殻を拾ったこともあった。東京から保護者や教員が来訪して、お菓子を差し入れすることもあった。夕方には、町内の施設を借りて、生徒たちによる「おとぎ会」と称する、ハーモニカ演奏、童謡、映画物語、お遊戯、劇、落語、唱歌などを披露する学芸会を催し、約500名もの入場者を集めることがあった。また、房州名物の牛乳で作るアイスクリームは美味で、生徒たちは毎夜のように館山の町に散歩に出かけたという。東京に帰る前日、15名の生徒が和舟を借り、にぎり飯、缶詰、サイダー、果物などを携えて沖の島へ遊びに行ったこともあった。この島は植物がこんもりと茂る無人島で、4～5名の海女さんが鮑やサザエを取っている光景に出合ったりもした。

さて、毎年楽しい共同生活を繰り広げてきた館山合宿所であったが、日本の軍国主義高揚による館山の軍事要塞化に伴い、1941年(昭和16)に急きょ海軍への譲渡を余儀なくされる事態となった。『青山学報』173号(1942年10月1日付)には、「その後寄宿舎の前方に海軍航空隊が設置され、水泳に不便を感じるようになったので、海軍への譲渡の話も持ち上がったが、何時とはなしにお流れになってしまった。ところが昭和16年12月、海軍の方から譲渡の話が持ち出され、急速に進展し、昭和17年1月20日付を以て手続を完了した。」とある。



青山学院水泳部合宿所跡地に立つ筆者(愛沢伸雄氏撮影) 2014年8月25日

海軍としては、館山湾の遠浅で穏やかな海は航空戦闘機の発着に適しており、ここに空母の形に見立てた飛行場の建設工事を推進した。約3年間の工事により、1930年(昭和5)に鷹の島と沖の島から柏崎海岸までの内海を埋め立てるかたちで飛行場が完成し、ここに横須賀・佐世保・霞ヶ浦・大村に続いて、日本で5番目の館山海軍航空隊が創設された(現在、ここは自衛隊館山基地となっている)。これにより、青山学院の水泳合宿も主たる水泳練習場が埋め立てられたため、不便を感じるようになったが、それでも練習場を移動することで以後も合宿所を維持し、1941年の夏季まで水泳合宿を継続した。しかし、まさに日米開戦の端緒となったハワイ真珠湾攻撃が行われた同年12月、海軍の強い要請により館山合宿所の譲渡が行われた。

館山海軍航空隊開設時ではなく、その後のアジア・太平洋戦争開戦時に急きょ譲渡が行われたことは、一体何を意味するのでしょうか。現在、関連史料が皆無に近い状況のなかで、この問題は多くの謎に包まれている。ところで、最近私はNPO法人安房文化遺産フォーラムのスタッフ(代表愛沢伸雄氏、事務局長池田恵美子氏)のご協力のもとで、フィールドワークを行ったことで、水泳部合宿所のあった場所を特定し、踏査することができた。ここは、館山飛行場の付属施設で地下要塞として、司令部・奉安殿・戦闘指揮所・兵舎・病院・発電所・航空機部品格納庫・兵器貯蔵庫・燃料貯蔵庫などを備えていたと考えられる赤山地下壕のエリアに隣接している。館山合宿所譲渡の謎を解くカギは、何とんでもこの赤山地下壕との関連であると考えている。次号では、この問題についてじっくりと考えてみたい。

2014 年度前期利用状況

1. 閲覧 () 内は前年度の数

1. 閲覧 () 内は前年度の数		4月		5月		6月		7月		8月		9月		計	
資 料 閲 覧 者 数		15	(16)	23	(7)	18	(11)	33	(14)	2	(1)	11	(9)	102	(58)
区 分 ※前年度な かった項目は 空欄	本学学生	0	()	0	()	5	(2)	19	(2)	0	()	1	(1)	25	(5)
	現教職員	3	(7)	11	(1)	2	(2)	6	(4)	2	()	5	(3)	29	(17)
	旧教職員	10	(7)	4	(2)	3	(3)	2	(3)	0	(1)	2	(3)	21	(19)
	校友	1	()	2	(1)	0	(1)	2	(1)	0	()	1	(1)	6	(4)
	他大学教員	0		6		6		2		0		2		16	
	牧師	0		0		0		0		0		0		0	
	一般	1	(2)	0	(3)	2	(3)	2	(4)	0	()	0	(1)	5	(13)
利用の目的	教会史編集	0	()	2	()	0	(1)	0	()	0	()	0	()	2	(1)
	学校史編集	1	()	0	()	3	()	2	()	0	()	1	()	7	()
	著述・論文作成	9	(9)	17	(3)	9	(4)	12	(3)	1	(1)	3	(5)	51	(25)
	伝記資料調査	0	(1)	4	(2)	5	(6)	3	(3)	0	()	2	(2)	14	(14)
	記録類の調査・研究	0	(4)	0	(2)	2	(1)	0	(4)	0	()	3	(1)	5	(12)
	その他	5	(2)	5	(1)	3	(4)	18	(5)	1	()	2	(1)	34	(13)
資料の種類	青山学院史関係 (AA)	14	(5)	12	(3)	11	(6)	28	(5)	2	()	6	(4)	73	(23)
	メソジスト教会関係 (B)	0	(4)	11	(1)	4	(1)	6	(1)	0	()	2	(1)	23	(8)
	英語・英文学関係 (F)	0	()	1	()	0	()	0	()	0	()	0	()	1	()
	明治期キリスト教関係 (G)	0	()	0	(1)	3	(1)	2	(3)	0	()	0	(1)	5	(6)
	一般分類図書	0	(6)	4	(5)	0	(3)	0	(4)	0	()	1	(3)	5	(21)
	その他	1	(1)	0	(2)	1	(1)	0	(2)	0	(1)	2	()	4	(7)
資料の形態 (閲覧点数)	図書	12	(35)	40	(26)	34	(37)	154	(26)	5	(1)	28	(22)	273	(147)
	マイクロフィルム	0	(1)	24	()	7	()	7	(2)	0	()	0	()	38	(3)
	写真 (含ネガ)	1	()	0	()	2	(1)	0	(12)	0	()	2	()	5	(13)
	アルバム	3	()	0	(1)	0	()	0	()	0	()	4	()	7	(1)
	個人資料ファイル	0	()	0	(6)	0	()	1	()	0	()	0	()	1	(6)
	ビデオ・DVD等	2	(1)	0	()	0	()	2	()	0	()	1	()	5	(1)
	その他	5	()	0	()	0	()	0	()	0	()	1	()	6	()

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. レファレンス () 内は前年度の数

2. レファレンス () 内は前年度の数		4月		5月		6月		7月		8月		9月		計	
件 数		7	(7)	12	(6)	7	(12)	6	(5)	1	(2)	7	(4)	40	(36)
質問者の区分	学生	0	()	0	()	0	(2)	1	()	0	()	0	()	1	(2)
	現教職員	4	(4)	5	(5)	1	(3)	1	(2)	0	()	4	(1)	15	(15)
	旧教職員	1	()	0	(1)	0	(1)	0	()	0	()	0	()	1	(2)
	校友	0	(1)	1	(2)	2	(2)	1	()	0	()	0	(1)	4	(6)
	一般	2	(2)	6	(3)	4	(4)	3	(3)	1	(2)	3	(2)	19	(16)
質問内容	文献所蔵調査	2	(3)	2	()	3	(1)	1	(1)	1	()	2	()	11	(5)
	写真所蔵調査	0	(1)	3	(1)	0	(4)	0	(1)	0	()	2	()	5	(7)
	事 項 調 査	5	(2)	9	(6)	3	(5)	0	(2)	0	(2)	1	(3)	18	(20)
	そ の 他	0	(1)	0	(4)	1	(2)	0	(1)	0	()	2	(1)	3	(9)

※質問内容は重複回答あり

3. 日誌抄



4月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室 (10回)
- ・学内教員来室 5 名 (年史編集、展示準備ほか)
- ・来客 9 名
- ・展示見学希望来室 一般 1件
- ・第7回展示検討小委員会開催
- ・青山学院150年史編集本部・編集委員会準備作業

5月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室 (9 回)
- ・学内教員来室 7 名 (年史編集、展示準備ほか)
- ・来客10名

- ・展示見学希望来室 一般 1件
- ・青山学院150年史編集本部・編集委員会 第1回合同会議開催
- ・第1回150年史編集委員会前の打ち合わせ
- ・『青山学院の歴史を支えた人々』出版打合せ
- ・2014年度第1回資料センター運営委員会開催
- ・第8回展示検討小委員会開催
- ・第1回150年史編集委員会開催

6月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室 (10回)
- ・学内教員来室 7 名 (年史編集、展示準備ほか)
- ・レポート作成のため学生来室 4 名
- ・来客15名
- ・『青山学院の歴史を支えた人々』出版打合せ
- ・140周年記念アエラムック打ち合わせ

- ・第9回展示検討小委員会開催
- ・文科省による構内見学（事務長案内）

7月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室（14回）
- ・学内教員来室8名（年史編纂、展示準備ほか）
- ・レポート作成のため学生来室27名
- ・来客13名
- ・『青山学院の歴史を支えた人々』出版打合せ
- ・2014年度第2回運営委員会開催
- ・140周年記念画像制作の打ち合わせ
- ・2015年度学院特別案件予算ヒアリング
- ・第10回展示検討小委員会開催
- ・『Aoyama Gakuin Archives Letter』10号納品、発送

8月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室（6回）
- ・学内教員来室4名（年史編纂、展示準備ほか）

- ・来客1名
- ・8月1日（金）仮事務室へ引越し
- ・8月2日～9月16日 間島記念館2Fを展示ホール等に改修工事
- ・『青山学院の歴史を支えた人々』出版打合せ

9月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室（5回）
- ・学内教員来室2名（年史編纂、展示準備ほか）
- ・来客9名
- ・9月17日（水）間島記念館2F事務室へ引越し戻り
- ・学内防災訓練参加
- ・展示ホール学院史展示準備開始
- ・150年史編纂事務打合せ

指定寄付

- ・資料センターの活動費として、1965年青山学院大学経済学部商学科K組卒業生有志の方たちより20,000円

2014年度前期受入れ

資料

（学内部署からの資料は除く）

寄贈（抜粋）

- 小林準（校友）様より、集団学童疎開資料 小林準に宛てた母・茂子からの書簡9通 昭和19年8月30日～昭和20年2月16日、小林準に宛てた前原敏子からの書簡1通、ほか集団学童疎開の資料7点
- 西内健（校友）様より、『私の歩んだ道 ― 反骨と波瀾の人生、事実は小説よりも奇なり、然れど人間万事塞翁が馬』西内健著 2013年7月
- 青山学院大学マスコミ研究会様より、『Free Walker Aoyama』(F.W.A.) Vol.2～Vol.23（欠号あり） 2003年10月1日～2014年Spring
- 滝澤民夫様より、『川越中学校の建学精神と初代校長増野悦興の生涯』滝澤民夫編著 2014年3月、ほか著作物1点
- 氣賀健生（校友・大学名誉教授）様より、ヨハネス・グーテンベルク聖書（四十二行聖書）中の1頁の原寸大複製品（ラテン語）「ペテロ第2の手紙」の該当箇所のラテン語・ドイツ語・英語・フランス語の解説書付、「第90回東京箱根間往復大学駅伝競走―箱根駅伝90記念バッジ」（記章） 2014年1月
- 吉岡勝見（校友）様より、「青山学院大学グリーンハーモニー合唱団 OBニュース49号」 2014年4月
- 佐々木竜太（校友・教育人間科学部助教）様より、「米国メソジスト監督教会女性海外伝道協会立による東京市域の貧民学校に関する研究 ― 浅草美以美小学校を中心として ―」（抜刷）佐々木竜太著 2014年5月
- 大松理子（職員）様より、青山学院初等部自転車クラブロゴ入りバンダナ（ピンク・ブルー各1点）
- 河村郁子（校友）様より、『歌集 翼 ―つばさ―』河村郁子著 角川書店 2007年6月、ほか著者の歌集3点
- 小林和幸（校友・文学部史学科教授）様より、東奥日報創刊120周年記念『笹森儀助書簡集』笹森儀助書簡集編纂委員会編 東奥日報社 2008年11月
- 齊藤百合子様より、女子専門部教科書『簡野道明先生聞日本外史新解』国語漢文研究会編 明治書院 1943年1月、ほか女子専門部教科書・参考書等2点
- 勝野栄一（校友・元高等部教諭）様より、『青山詩集 GREEN HILL POEMS』著者代表：豊田實 1953年10月ほか英文文教科書3点
- 李世起様より、博士論文『A Study on Baek Seok』李世起著 2014年2月（原文は韓国語）
- 青山学院大学体育会庭球部OB会より、『青山学院大学庭球部 創部90周年誌』 2013年8月
- 江口弥生（校友）様より、青山学院大学英文学会第二分科会 英文学会機関誌 第4号 1974年11月
- 外山信司（校友）様より、本多庸一資料：「中西月華撮影・刊行の写真帖『九十九里』 1917（大正6）年8月25日（コピー）、ほか本多庸一資料6点
- 笹森建英（第7代院長笹森順造子息）様より、『本多庸一―国家 教育 傳道―』野口伐名著 2014年3月
- 辻雄史様より、『勝田銀次郎市長と水害復興』近現代神戸市政史研究会著 2014年7月
- 中澤和夫（文学部英米文学科教授）様より、『A Guide to English Language Studies』初版、第2版、第3版、第4版 中澤和夫、武内信一編 2005年4月、2006年4月、2010年4月、2012年4月
- 大学文学部英米文学科同窓会様より、同窓会会報「Aoyama Sapience」第30号 2014年7月
- 竹内正徳（校友・元職員）様より、青山学院大学剣友会「会員名簿」創部110周年記念 2013年11月、同110周年記念品「寂然不動」の手拭い
- 中島一仁様より、『幕末期プロテスタント受洗者の研究 ― 佐賀藩士・綾部幸熙の事例にみる ―』中嶋一仁著 平成26年3月
- 道山秀樹様より、北米カルフォルニア州リバーサイド市日本人美以教会・関根氏からの絵葉書（コピー）

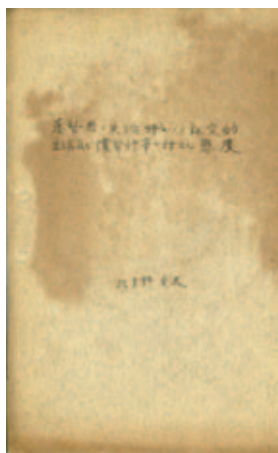
- 町田 侑（校友）様より、写真：昭和22～23年頃の正門
- 佐藤隆一（校友・高等部教諭）様より、『幕末期の老中と情報 ―水野忠精による風聞探索活動を中心に』佐藤隆一著 2014年6月
- 安部友紀枝（校友・職員）様より、1989年 東都大学野球優勝記念ネクタイピン 青山学院大学野球部
- 茗荷雅夫（校友・元職員）様より、『神宮球場ガイドブック』Vol.57、58 2014春、秋号、「青山学院大学 硬式野球部 2014年 東都大学野球 春季リーグ戦、夏季オープン戦 試合結果状況」伊藤信夫編 2014年6月、9月
- 雨宮剛（校友・大学名誉教授）様より、『アメリカン・クリスマスの誕生 ―サンタが生まれた背景―』松谷淑子（校友）著 1998年12月25日
- 吉田明弘（校友）様より、『和泉教会外史 ―築地福音教会誕生から和泉教会会堂完成まで』吉田明弘著 2014年8月
- 佐藤剛（校友・職員）様より、体育会ラグビー部東日本大

震災ボランティア活動の記録

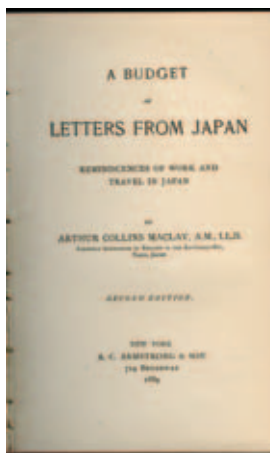
- 木村幹（大学名誉教授）様より、『基督者ノ生活特ニソノ社交的生活及ビ慣習行事ニ対スル態度』波多野貞夫著 1923年7月（写真①）
- 青山学院校友会大学部会電気電子工学科同窓会様より、『青山学院大学電気電子工学科同窓会報』第18号 2014年9月
- 羽坂勇司（校友・元理事長）様より、『A BUDGET of LETTERS FROM JAPAN』by ARTHUR COLLINS MACLAY, 2nd ed. A.C.ARMSTRONG & SON 1889（写真②）、『訓点 新約全書』明治17年1月（写真③）、ほか6点
- 他大学・学校 年史・紀要類

購入

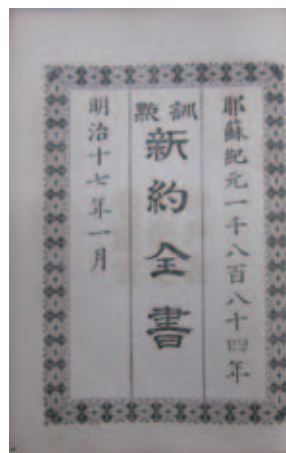
『従軍記者の黙示録』田中至（校友）著 東京 潮出版社（写真④）



写真①基督者ノ生活特ニソノ社交的生活及ビ慣習行事ニ対スル態度



写真②A BUDGET of LETTERS FROM JAPAN



写真③訓点新約全書



写真④従軍記者の黙示録

青山学院資料センター利用案内

資料閲覧希望の場合は、必ず事前にご連絡ください。

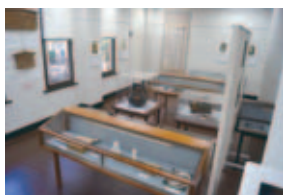
なお、2014年11月11日より、青山学院史料の展示を行っています。資料閲覧、展示ホール公開は、下記のとおりです。URLもご参照ください。

★資料閲覧

月曜日～金曜日 9時30分～17時
土曜日 9時30分～13時
(昼休み11時30分～12時30分)

★展示ホール公開

月曜日～金曜日 9時30分～17時
土曜日 9時30分～13時
(入場は閉室の30分前まで、無料)



展示ホール

★休室日

日曜日・国民の祝日・クリスマス・年末年始（2014年12月25日～2015年1月4日）・その他青山学院が定める休日

★お問い合わせ・連絡先

TEL：03-3409-6742 FAX：03-3409-8134
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 間島記念館2階

★URL <http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/>

資料センター運営委員

院長（職務上）	梅津 順一	高中部（高）	教員 1 名	佐藤 隆一
常務理事 1 名（職務上）	杉村 佐壽	高中部（中）	教員 1 名	小田井 孝
学院宗教部長（職務上）	シュエ士戸 ポール	初等部	教員 1 名	窪田 靖
大学図書館長（職務上）	三村 優美子	幼稚園	教員 1 名	川島 祥子
大学 教員 1 名	清水 信行	総局長（職務上）		伊豆 一男
女子短期大学 教員 1 名	谷本 信也	資料センター事務長（職務上）	傳農 和子	

資料センタースタッフ人数

資料センター事務
専任 2人
パートタイム 1人
150年史編纂業務
パートタイム 3人
派遣 1人

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 11号

2014年12月15日
青山学院資料センター編・発行

